

【タレットパンチャー】

後も防雪柵製造業の立場から環境問題に取り

# 理研興業(株)とケイ・マック(株)(本社・大阪)

## 国交省向け防雪板製造工場開設

### 溶融亜鉛メッキを必要としない 無機系新防錆塗料を使用した カラー折板の製造に同時着手

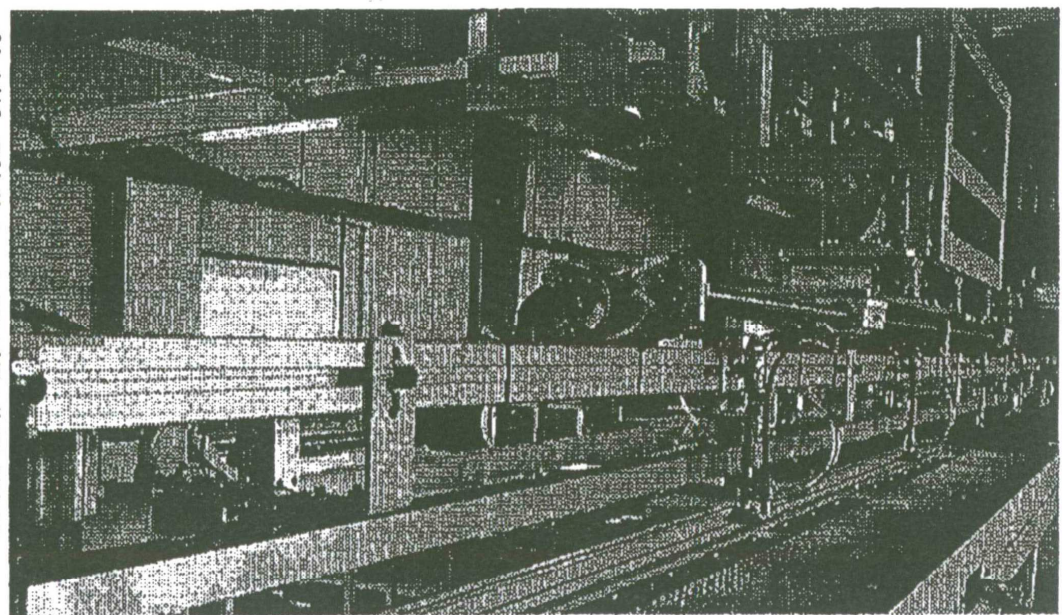
防雪柵メーカーの理研興業(株)(本社・北海道小樽市)とケイ・マック(株)(本社・大阪)では、NEXCO、国土交通省向けの防雪板製造工場を関東エリアに開設した。新型機械の導入により大幅な納期短縮を実現、東北、北陸の営業エリアをさらに拡大する。

従来、プレスブレーキにより防雪板を成型してきたが、同工場では自動ロールフォーミング成型機を2台導入し、精度の高い均一な成型と、従来製造工程の2倍以上の生産性を確保している。また、タレットプレスパンチを5台導入し、有孔板の製造時間の短縮化も可能にした。同工場

での製造により、材料の輸送コストを削減させる狙いもある。

また、理研興業(株)は亜鉛の原材料が価格上昇している中で、これからは溶融亜鉛鍍金よりも塗装技術の知識を高め、防雪柵にも取り入れていきたいと模索してきた。このほど溶融亜鉛鍍金と同等以上の耐食性を保持する無機系新防錆塗料を使用した、耐久性の高いカラー折板の製造に成功した。ケイ・マック(株)は建築業界での実績も多く、これからは両社で建築分野にも需要を拡大する。理研興業(株)の柴尾社長は「膨大な量の亜鉛を溶融するの

に、大量の二酸化炭素を排出する為、これを使用しない事が環境負荷低減につながる。今後防雪柵製造業の立場から環境問題に取り



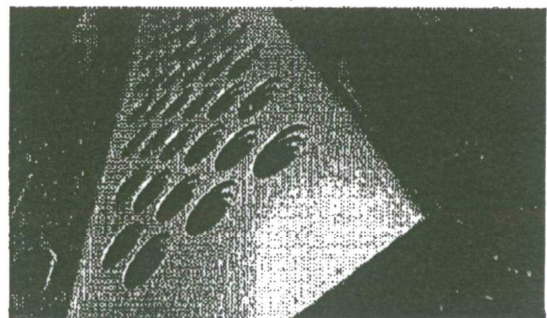
【自動ロールフォーミング】

組んでいきたい」と抱負を語った。

理研興業(株)の歩みを遡ると、現・理化学研究所を母体とした新理研工業(株)及び理研商事(株)の北海道営業所として昭和24年12月に発足。理研系各社製品の販売をしてきたが、同年10月、新理研工業(株)が大同製鋼(株)と合併するのを機に営業所閉鎖の運びとなった。しかし、取引先などから営業所存続の要望が出され、30年11月11日、理研興業(株)が小樽市を本社として誕生した。昭和36年には緩み止めクロスネジを自社開発し、国内はもとより米、

仏、英、独など6カ国で特許を取得。「理研クロスボルト」として世界に名を広げた。同38年業務拡大に伴い札幌市に本社を移転、鋼材で防雪柵を開発する事に業界で初めて成功し、特許を取得した。一方、ケイ・マック(株)は46年10月に設立。資本金9000万円。金属加工品、自動車部品を主体に製造し住宅関連製品の製造、紙燻販売、樹脂製品販売と多様な営業品目を掲げ、

【有孔板完成品】



## 自動収納型高機能防雪柵 国交省のNETIISに登録

なお理研興業(株)の自は5月10日、国土交通省のNETIISに登録

目を含んでいる。